

福井方式を日本の教育モデルに

全国学力テストで5回連続して全国トップレベルの結果を残すなど、「学力・体力日本一」の福井の教育。福井の子どもたちの学力の質をさらに高め、福井の教育を全国のモデルにしようと、県が進める活動を紹介します。

「福井型18年教育」を推進

経済のグローバル化が進み、時代の変化は一段とスピードを上げています。

こうした中、社会は、大局観を持ち、判断力や行動力に優れたリーダー人材を必要としています。福井の子どもたちも、県内外のどこで働くことになろうと、こうした力を備え、世界を視野に活躍できる人材として成長していくことが求められています。

今年4月に、全国の小学6年生、中学3年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」では、福井の子どもたちの学力は、引き続き全国トップクラスでした。一方で、全国の子どもたちと同様に、知識力に比べて思考力や



夏休みには県内の全小中学校で学習のつまづきなどの相談に応じる「個別学習会」を開催

活用力が弱いという課題も明らかになっています。各々が夢や希望を実現し、世界の子どもたちと社会で渡り合っていくためには、幼児教育から高校教育までの18年を連携させ、児童・生徒がつまづきことなく、スムーズに考える力を身に付けていくことが必要です。

幼児教育を強化

子どもたちの学力を高める上で、まず重要なのは、幼児期の教育をしっかりとして進めていくことです。幼児期は、人間形成の基礎であり、「ルールを守る」など、他人と協調して活動できる規範意識を持つことや、規則正しい生活習慣を学んでいくことが、楽しい小学校の集団生活につながります。

そこで、県では、幼児の保護者、祖父母、習いごと指導者、幼稚園教諭など約1万人を対象に、アンケート調査を実施。この結果等をもとに、今年10月、「県幼児教育支援プログラム」を策定し、今後の幼児教育のあり方について方向付けを行いました。また、この11月には、ユニー



幼児の感性や情操を育む「読み聞かせ」活動

アイふくい(福井市)に「県幼児教育支援センター」を設置。保育士や幼稚園教諭が一緒に学び、指導力を高める研修や、小学校教諭との意見交換を通じた幼児教育の改善を進めます。

加えて、幼児期の子どもを持つ保護者が、子どもの成長

段階に合わせて子育てに役立てることができるようなワークシートの作成や、幼児教育に関する知識満載のガイドブックの作成などを進め、家庭教育も応援していきます。

一貫性を重視した小中高教育を実践

こうした幼児教育を受けた子どもたちが、小・中・高と学力を高めていくことができるよう、今年5月に、「県学力向上センター」を設置し、小・中・高の接続を意識した施策を展開しています。

例えば、このセンターでは、「私の夢カルテ」を活用し、小学4年生か

ら中学3年生にわたり、児童・生徒が夢や希望を継続的に確認し、教員の助言をもとに、実現に向けて学習意欲を向上。また、小中学校で、本県独自の少人数教育を実施し、国の基準を超える学級の設置や教員の配置を行うなど、義務教育の連続性を高めています。

加えて、中・高の教員が一緒に授業研究を行い、高校入学直後のつまづきを防止する事例集づくりを行うなど、円滑な中・高の接続に努めています。

さらに、今年10月から、中高の6年間を同一の公立学校で学ぶ中高一貫教育の検討を開始しました。この制度では、高校の学習内容を中学校で先取りして学習できるほか、生徒が自らテーマを設定し、創造力や思考力を高めながら学習ができる探究型のカリキュラムを組むといった特色があり、生徒の個性や能力を伸ばす弾力的な教育課程の実現が期待できます。

国際社会で活躍できる人材を育成

子どもたちが、世界に向かってチャレンジする教育にも力を入れています。

現在、一部の県立高校が地元市町の中学校と協力して実施している中高一貫教育の成果を踏まえつつ、今後のあり方について検討していくこととしています。



英語だけで合宿生活を送る「高校生英語キャンプ」を毎年開催

まず、英語教育では、昨年度から、高校生1000人を米国に2週間派遣し、語学研修を実施。研修の前後で、TOEICの平均スコアが約50点向上するなどの成果もあり、今年度も引き続き実施します。

また、身近な題材を問題に、数学や理科の応用力、実験力を競う「ふくい理数グランプリ」の開催や、「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」を創設し、サイエンス分野で優れた研究成果を挙げた生徒の表彰を行うなど、サイエンス教育も充実させています。

これらの活動により、国際科学オリンピックの国内予選参加者は、平成18年から5年間で、約10倍に増えるなど、大きな成果を挙げています。

即戦力を育てる職業系教育の充実

福井の産業の将来を担う人材を育成するため、職業教育にも力を入れています。

企業の経営者や技術者を学校に招き、技術開発を行うために必要な知識や技能について直接指導を受けるほか、現場で役立つ資格の取得や、技能大会への高校生の出場を支援しています。

また、今年度からは、新たに県内の工業・農業系高校の生徒が、企業などの生産現場で10日間程度の実務研修を受けるなど、産業界の協力を得て、即戦力として活躍できるよう、実践的な業務体験を行っています。



企業現場で職業スキルを修得できる実践的な研修

まだスタートしたばかりです。今後も県民の皆さんから意見をいただきながら、福井の教育が日本の教育モデルとなるよう、さらに発展させ、福井の若人たちが世界に羽ばたく教育の実現を目指していきます。